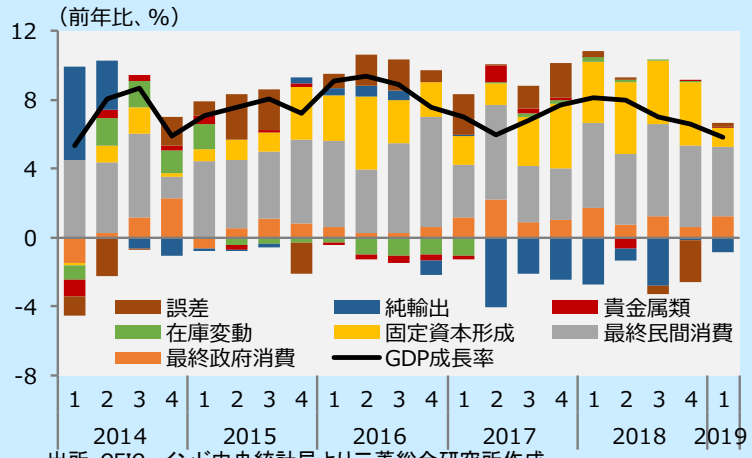
インド：GDP成長率（2019年1-3月期）
ー世界経済減速を受け、成長は前年比5.8%に鈍化ー

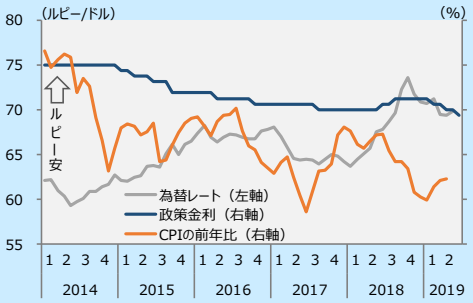
MRI Daily Economic Points
June 7, 2019

図表1　GDP成長率



出所：CEIC、インド中央統計局より三菱総合研究所作成

図表2　為替レート、インフレ上昇率、政策金利



注：為替は対米ドルレート。（左軸）
出所：CEIC、インド準備銀行、インド中央統計局、インド選挙管理委員会より三菱総合研究所作成

図表3　下院選挙の党派別議席数

政党	総議席数(542席)	
	獲得議席数	前回からの増減
インド人民党（BJP）	303議席	+21
インド国民会議（INC）	52議席	+8
ドラヴィダ進歩連盟（DMK）	23議席	▲11
草の根国民会議派（AITC）	22議席	+15
YSR国民会議派（YSRCP）	22議席	+13

注：残議席は他少数政党への配分

評価ポイント

今回の結果

- インドの19年1-3月期のGDP成長率（前年比）は内需の減速に加え、世界経済の減速と米中貿易摩擦の激化による不確実性の高まりを受け、+5.8%と18年10-12月期の+6.6%から伸びは大きく鈍化。
- 需要項目別寄与度をみると、成長鈍化の要因には昨年の金融引き締めを背景にした内需の悪化がある。投資（固定資本形成）の前年比寄与度が+1.1%と前期の同+3.7%から失速し、最終民間消費の寄与も+4.1%（前期+4.7%）に減速。一方、選挙関連支出の増加により、政府消費は+1.2%に伸びが高まった。外需についても、輸入は▲2.9%とマイナスの寄与は縮小したものの輸出の伸びが+2.0%と大きく鈍化したため、総じて純輸出の伸びは▲0.8%とマイナス幅が増加した。
- 輸出については、主要輸出相手国である英国は前年比▲8.8%、韓国同▲11.3%、豪州同▲31.8%、台湾同▲31.3%と減少した一方で、米国同+17.8%、中国同+15.8%と増加。品目別では2019年入り後の資源安を背景に、銅、鉛、亜鉛の輸出の減少幅が大きい。
- 5月の下院総選挙でモディ首相が率いるBJPが大勝し（図表3）、継続して政権を担うこととなった。景気を支える政策運営への期待は大きい。2019年入り後は政策金利を連続3回引下げ内需拡大を期待。

基調判断と今後の流れ

- インド経済の先行きは、世界経済減速と米中貿易摩擦を背景とした外需の減速に加え、内需の減速が続くことで2020年にかけて成長鈍化を予測。内需減速の背景には、引き続き高い失業率や、金融緩和に伴うインフレ率の上昇などが挙げられる。
- 下振れ要因として、米中協議が決裂し、米国が中国以外にも貿易戦争を仕掛けるなど、さらに不確実性が高まる状況となれば、外需の悪化に加えて金融市場でのリスク回避の動きが強まり、通貨安や資本流出を通じた消費や投資への更なる下押しが懸念される。

担当：政策・経済研究センター　新藤　恵子　TEL 03-6858-2717

Copyright (c) Mitsubishi Research Institute, Inc.